

初期キャリアにある女性看護師の職業継続意思への一考察

金城学院大学 堀井希依子*

The Intentions of Early-Career Nurses to Continue Working

Kieko HORII

(Kinjo Gakuin University)

The purpose of this study was to identify the factors that cause female nurses to terminate work early in their nursing careers. A survey of 808 nurses less than ten years into their careers was conducted, covering background factors (age, education, workplace, night shifts, working hours, instructional role), psychological factors (organizational commitment, job satisfaction, reality shock), and the intention to continue work following marriage and/or childbirth. A covariant structure analysis was conducted on 405 valid samples to examine the relative influence of these three factors. The results indicated that working nights lowered nurses' organizational commitment and that reality shock had a negative effect on their intention to continue working. It was also found that playing an instructional role increased organizational commitment, helped nurses overcome reality shock, and had a positive effect on their intention to continue working.

Keywords : intention to continue working, female nurses, early career

1. 問題背景

近年、高齢化の進展、医療技術の進歩により看護師へのニーズが高まっている。現在、日本看護協会では高齢化の進展に伴い、高齢者介護のあるべき姿として介護予防、在宅重視、多様な居住施設での医療の強化を目指しており、看護師を求める場所が従来の病院施設だけでなく、在宅や訪問看護ステーションなどにおいても求められるようになってきている（日本看護協会，2007）。さらに、近年の医療技術の進歩は目覚ましい。例えば、抗がん剤の進歩により、同じ疾病を持つ患者に対してでも、個々の状態に合わせた多様な投薬治療が可能となっている。このような現状に伴って、各医療分野において高い専門性や知識を持った看護師が求められ、認定看護師や専門看護師資格の取得が奨励されている。

しかし、このような看護師へのニーズの高まりに反して、現在看護師の人手不足は深刻な問題となっている。看護師の人手不足の原因としては、離職率の高さが挙げられる。2003年から2005年の3年間において、その離職率は11.6%から12.3%へと増加しており、離職率は

今後も増加の一途を辿るとの予想がなされている。また、特に新卒看護師の離職率は高く、2005年の新卒看護師の離職率は14.5%となっている（日本看護協会）。さらに潜在看護師の存在も看護師の人手不足に影響を及ぼしている。潜在看護師とは、看護師免許を取得していないながらも、現在は何らかの理由により看護師としての就業をしていない者のことを指す。厚生労働省によると、現在日本には約65万人の潜在看護師が存在すると報告されており、この数は、看護師免許取得者の約3割に及ぶ。

これまで概観したように、看護師へのニーズの高まりに反して、看護師の人手不足は深刻化している。このような現状を鑑みると、看護師の離職防止策の必要度は非常に高く、日本看護協会では新卒看護師、看護師の離職防止、潜在看護師の復職は強化項目として掲げられている。実際に現時点において、日本は年間100万人が死亡する多死時代に突入しており、20年後には年間170万人が死亡する時代を迎えると予測されている。少子高齢化の進展を背景として、今後18歳人口は減少し、現在の127万人から2030年には約100万人台にまで減少すると予想されている（総務省（将来人口推計），2007）。このことから、看護職員の養成数を大幅に増加させることで看護師数を確保しようとする試みは非現実的であり、既存の看護師をいかに定着させるかがポイント

*金城学院大学大学院 人間生活学研究科 博士後期課程。